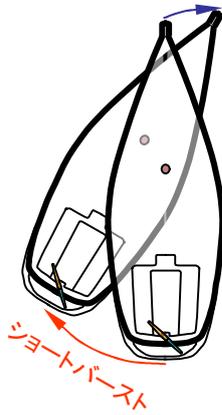


バウの水中部分は船体で最も容積が小さい。  
 従って、水の抵抗も少ないため、風の影響を受けやすい部位になる。  
 このことをポートハンドリングに利用することを学ばなければならない。  
 風に逆らわず、風を利用する。



## 極端に狭い場所で船を回転させる

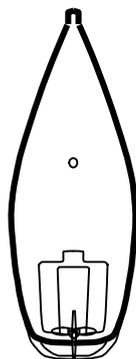
バウを向かせたい方向へ押す方法

- ①ラダーをStbd側に切る。
- ②ギアを前進に入れショートバーストする。
- ③Stbd側に切っているラダーにプロペラのウォッシュが当たる。
- ④その反動でスターンがPortにスイングする。
- ⑤ギアをニュートラルに戻す。
- ⑥慣性でバウが回る。

前進力がほとんど発生しない間での操作で完結させると有効。

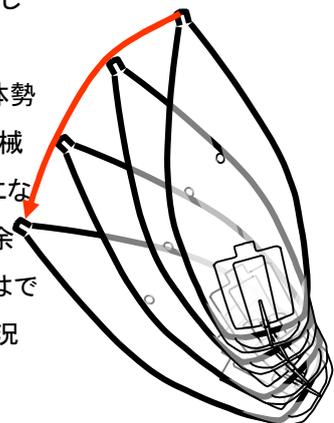
## 狭い水面で待機するときの留意事項

風に対してできるだけ正確に向首していると、必要最小限の前進の機械の間欠使用により、占位位置を維持できるとともに、機械の間欠使用時に舵を併用することで、風に対する向首体勢を維持できる。



速力がない状態で風を左右のいずれかの舷で受けてしまうと、船首が急激に風下へ落ちてしまう。

この傾向に陥ると、体勢を立て直すために機械と舵を使用することになるのであるが、操船余地が少ないところではできるだけ避けたい状況である。



前進でも後進でも最小舵効速力以上の対水速力がある場合は舵が効く。

前進ギアを使用する場合、対水速力がない段階でもプロップの水流が舵面に当たり舵が効く。

後進ギアを使用する場合、プロップウォークで船尾を振られるが、対水速力が発生するまで舵による制御はできない。

風がある状況で後進ギアを使うと、急速に船尾が風上へ切り上がり、船首が風下へ落とされる。